

外からの米軍の「デテコイ、デテコイ」の呼びかけに対し、日本兵が拒んだため、壕は攻撃を受け、多くの住民が犠牲になった。

戦後、遺族や関係者により、悲劇のあったその場所に、一家全滅世帯を含む戦没者を祀る慰霊塔「鎮魂之塔」「忠霊之塔」を建立。鎮魂之塔は71人、忠霊之塔は159人の犠牲者を祀っている。

忠霊之塔は、米須小学校校門の東側、県道7号沿い。鎮魂之塔は米須小学校北側約50mの場所に建立され、塔の後方には、入り口が縦穴のテプトン壕がある。

### ⑩ ひめゆり学徒散華の跡



南へ南へと逃げ場を失った住民は、弾雨のなか、海岸地帯へと追いつめられた。荒崎海岸一帯でも多くの人々が隠れ場所を求めて右往左往していた。このなかの一部のひめゆり学徒もいた。6月21日、平良松四郎教諭引率の学徒らは突然米兵に自動小銃で攻撃され、混乱のなか、手榴弾で自決し、10人が命を失った。現在、この場所には「ひめゆり学徒散華の跡」の碑が設置されている。ひめゆり学徒とは、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の両校から動員された学徒隊の戦後の呼び名である。

糸豊環境美化センター前から、荒崎海岸への標識に従って農道を進むと海岸近くに出る。海に向かって岩場を左にしばらく歩くと碑が見えてくる。

### ⑪ 韓国人慰霊塔

日本軍に強制徴募され軍夫や慰安婦として沖縄戦で犠牲となった半島出身者を祀る。1975年、韓国人慰霊塔建立委員会によって石塚状の慰霊塔を建立。韓国各道から取り寄せた石が石塚の正面に並び、石塚手前広場の矢印は故国の方向を示す。碑文には「……この沖縄の地にも徴兵、徴用として動員された一万余名があらゆる艱難を強いられたあげく、あるいは戦死、あるいは虐殺されるなど惜しくも犠牲になった……」とある。

摩文仁の平和祈念公園内。県平和祈念資料館の道向かい。

**【注意】**これらの場所には危険な箇所もあります。服装や持ち物には十分注意し、子どもたちだけ、または一人だけでは決して行かないようにしましょう。また、草むらではハブに注意してください。

て脅され、住民は抵抗するが、壕を追い出された。

山城の沖縄県平和創造の森公園内。上里にある(株)那覇ミートの東側。

### ⑦ 轟壕



全長約100mの東西に延びる自然壕。壕内を川が流れる。名城の住民や他地域からの避難民が隠れていた。6月上旬に島田敏夫知事以下の県庁幹部が避難し、沖縄県庁最後の地とも言われている。知事は15日夜県庁の活動停止を命じ、摩文仁の軍司令部壕に向かった。その後入ってきた日本兵に住民や県庁職員は、壕内の湿地帯に追い立てられた。18日ごろ米軍が壕を攻撃するが、日本兵は住民の脱出を許さなかった。24日ごろ多くの住民が米軍に保護される。

伊敷集落から南西方向に約500m。国道331号を南部病院前交差点から南波平向けに約600m行くと右側道路沿いに「伊敷轟壕遺跡」の標柱がある。壕はその奥。

### ⑧ 魂魄の塔



戦後最も早く住民の手によって建立された慰霊塔。合祀者3万5千人で、県内最大の慰霊塔である。毎年慰霊の日には、多くの県民が参拝に訪れ終日香煙が絶えない。

戦後間もなく、真和志村民は米軍の命により摩文仁村米須に移動。人々の目に映ったのは風雨にさらされる多くの遺体だった。遺骨収集は反米活動と見られていた当時、真和志村長の金城和信は米軍に遺骨収集の許可を強く要請。ようやく許可を受け、村民とともに数回にわたって遺骨を収集し、米軍提供の資材を利用して納骨所を建立、1946年2月に完成させる。

国道331号の「ひむかいの塔」交差点を南に約1km。

### ⑨ 忠霊之塔と鎮魂之塔

米須は市内で沖縄戦の被害の最も大きかった地域である。米軍は6月19日ごろ米須一帯へ進攻。そのころ字内にあった避難壕は住民と日本兵が雑居していた。

### ③ 弾痕の残る糖蜜タンクと門柱



県道52号と同77号の交わる下与座一帯は、かつて高嶺製糖工場の敷地だった。戦後、米軍による土地接収で多くの住民が屋敷に戻れなくなり、工場跡地を字が購入、分譲し、新しい集落が形成された。

沖縄戦当時、工場では軍命により、戦闘が激しくなっても、斬り込み隊用にと酒作りを行った。集落内には弾痕の多数ある糖蜜タンクと工場の門柱が残っている。

タンクは県道52号沿い、与座自治会駐車場道向かい。門柱は県道77号沿いの集落内にある。

### ④ 真栄里アミヤ原の特攻艇掩体壕

中央図書館北側を東西にのびる丘陵の崖下には、琉球石灰岩を掘り込んで造った奥行き約20mの壕が確認できる。これは、敵艦船に接近し爆雷を投下する任務を負った、小型の特攻艇を格納するための掩体壕で、海上挺進基地第26大隊が構築したものである。舟を浜まで運ぶのは防衛隊員の任務で、レールのあるところはトロロコに載せて運び、レールのないところでは十名程の防衛隊員が担いで運んだ。

スーパーかねひで前の交差点から東へ約300m。市立中央図書館北側の崖下。

### ⑤ 白梅之塔

沖縄県立第二高等女学校の生徒からなる学徒隊の最後の場所である。八重瀬岳の第24師団第1野戦病院解散後、16人の学徒がたどり着いたのが、上の壕(眞山之塔裏)、下の壕(白梅之塔側)と呼ばれた真栄里の自然壕である。上の壕は食糧弾薬倉庫、下の壕は傷病兵の看護場所で、学徒らは負傷兵の手当を手伝った。6月21日に下の壕が、翌22日に上の壕が米軍の激しい攻撃を受けた。白梅之塔には学校関係者149人が合祀されている。敷地内には国吉住民が建立した「萬魂之塔」がある。

国吉集落の南側。県道250号沿いに標識がある。白梅之塔から南へ約150mほどの「眞山之塔」後方に上の壕がある。

### ⑥ マヤーガマ

マヤーアブともいう。多くの山城の住民が避難しており、夜になると近くの畑に芋を掘りに行ったり、集落東側のアシチャーガーへ水を汲みに行ったりしていた。後からこの壕にやってきた日本兵に、ここは軍が使うからと、軍刀を突きつけ



### ② 山巔毛の監視哨跡等



山巔毛の頂上部分には、監視哨台座跡、御大典記念山巔毛改修碑、国旗掲揚台が残っている。監視哨とは、上空を飛来する航空機を速やかに発見し、敵味方を識別し、確実に防空機関に報せるための施設。現在は八角形の基礎部分が残る。

1932年に建てられた御大典記念山巔毛改修碑は、沖縄戦当時、米軍の攻撃目標になるとして、日本軍が台座から切り倒した。台座は往時のままだが、上部はその側に置かれている。コンクリート製の国旗掲揚台には現天皇の誕生を祝う「皇太子殿下御誕生記念 昭和九年八月一日建立」の文字が刻まれている。両方とも砲弾の痕が残る。

糸満ロータリー北東の丘、山巔毛公園内。

### ① 潮平壕



全長約150mの自然壕。1945年3月23日以降、多くの潮平住民が避難。5月中旬、3名の日本兵に追い出されるが、再び6月14日(旧暦5月5日)に米軍に保護される。戦後、壕の入り口付近に鳥居と碑を建立。この場所で、毎年旧暦5月5日に住民が参加して、多くの人々の命を救った壕への感謝と戦没者への慰霊、平和を祈願する潮平権現祭が行われている。

パークタウン阿波根の南約250m。近くに長谷寺がある。壕の入り口の鳥居が目印。

# 市内の戦跡を歩こう

6月23日慰霊の日特集

沖縄県は、去る大戦において住民を巻き込む日米間の激しい地上戦が展開された地であり、20万人あまりのかけがえのない生命と多くの貴重な財産が失われました。沖縄戦終焉の地である糸満市には、戦時中、住民が避難したガマや日本軍が構築した陣地、戦後住民の手によって建立された慰霊碑など、沖縄戦の記憶を伝える「モノ」が数多く残っています。そして、これらの「モノ」たちは、静かに何かを語っています。私たちの身近にある戦跡を実際に訪ね、それらの声に耳を傾けてみませんか。